

富山高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	歴史学Ⅰ	
科目基礎情報							
科目番号	0101			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	電子情報工学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材	「大学でまなぶ日本の歴史」(吉川弘文館)						
担当教員	市嶋 聡之						
到達目標							
日本における地域社会の歴史的形成過程を理解する。歴史事象を素材として調査能力と論理的考察力・表現力をつける。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		日本史の全体的な流れを理解し、主要な人物や制度、事件等に関する詳細な知識を習得している。		日本史の全体的な流れを概ね理解し、主要な人物や制度、事件等に関する基本知識を習得している。		日本史の全体的な流れを理解できず、主要な人物や制度、事件等に関する基本知識も欠如している。	
評価項目2		歴史的事象の詳細な内容を知り、その意義を正確に理解して、論理的に説明することができる。		歴史的事象の概要を知り、その意義を概ね理解して、簡潔に説明することができる。		歴史的事象の知識が曖昧で、理解も不十分である。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 3							
教育方法等							
概要	目標:歴史の諸事例を通じて、社会の諸現象を多面的かつ深く掘り下げて理解する考察力をつける。 概要:日本中世史を主題とする。北陸地域などの地方史における事例研究を通じて、中世日本社会の複雑で多様な諸相を理解し、中央の視点による「通史」の再考をはかる。						
授業の進め方・方法	教員単独による講義 事前に行う準備学習:講義の復習および予習を行ってから授業にのぞむこと						
注意点	板書と配布レジュメが定期試験の主な出題根拠となる。レポート提出(最低一回実施)も単位認定の必須要件とする。定期試験は、中間試験と期末試験を実施する。総合成績の内訳は、試験(中間と期末の総合)70%、レポート30%とする。 指定教科書以外にも補助教材を適宜用いる。 評価が60点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にあつては、その評価を60点とする。 学修単位のため、30時間相当の授業外学習が必要である。 授業外学習・事前:授業内容を予習しておく。 授業外学習・事後:授業内容に関する課題を解く。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業目標とシラバスの説明、科目全体の導入		
		2週	日本中世史概説Ⅰ		律令国家の衰退と武家政権の成立		
		3週	日本中世史概説Ⅱ		南北朝の争乱と室町幕府		
		4週	日本中世史概説Ⅲ		室町幕府の衰退と戦国時代		
		5週	日本中世史概説Ⅳ		中世における仏教諸宗派の展開		
		6週	北陸(越中)中世史Ⅰ		鎌倉・室町時代の北陸地域における統治体制		
		7週	北陸(越中)中世史Ⅱ		応仁の乱・明応の政変と北陸		
		8週	中間試験		1～7回の学習内容の確認		
	2ndQ	9週	北陸(越中)中世史Ⅲ		北陸における地域国家形成の動き		
		10週	一向一揆と北陸Ⅰ		浄土真宗本願寺派の教線拡大と一向一揆の登場		
		11週	一向一揆と北陸Ⅱ		加賀一向一揆:「百姓の持ちたる国」の実態		
		12週	一向一揆と北陸Ⅲ		加賀一向一揆の拡大と周辺地域		
		13週	一向一揆と北陸Ⅳ		一向一揆と中央情勢の連動(永正の争乱)		
		14週	一向一揆と北陸Ⅴ		加賀・越中の戦国争乱		
		15週	期末試験		中間試験以降の学習内容の確認		
		16週	補講・成績評価・確認		成績の評価と確認		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	10	40
専門的能力	20	0	0	0	0	10	30
分野横断的能力	20	0	0	0	0	10	30